

I 調査の概要

1. 調査の目的と背景

戦後日本の社会経済の成熟に従って、女性の高学歴化は進展したが、女性の社会進出が遅れていることはつとに知られた日本の特徴である。労働力率のM字カーブの維持、とりわけ高学歴女性の労働市場からの退出が顕著であると指摘されている。

女性が就業を中断したり、あるいは離職してしまう状況については、これまでも多くの調査・研究がなされてきた。そのなかには、キャリア支援の観点から、何らかの援助が女性のキャリア形成を円滑に進めるとの知見が示されている。本研究所が2008年度から2010年度までに私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として実施した「女性の多様なキャリア開発のための基礎的研究——『女性とキャリアアーカイブ』構築へむけて」において収集した社会調査のなかにも、特に80年代半ば以降、女性の家族キャリアと職業キャリアの両立、あるいは職業キャリア再開の条件について、いくつか興味深い調査研究がなされている。

本調査は、そうした先行調査や先行研究の知見を踏まえながら、多様なライフコースをたどる女性の就労に対し、どのようなキャリア支援が可能か、それを探ることを目的としてなされたものである。従来行われている女性の能力開発や再就職支援は、やや定型的な子育て支援に終始しており、多様なプログラムの開発という点では、遅れているのではないだろうか。キャリア支援の新たな方向性を探るためには、女性の就労プロセスそのものに着目し、それぞれのニーズを探る必要がある。そこで、本調査は、女性の5つの就労パターン（初職継続型／転職型／再就職型／離職型／就労経験なし）に着目しながら、就労に対する意識、初職離職理由、転職・再就職意向、学校卒業時のライフデザイン、経済的背景等を明らかにし、女性のキャリアの軌跡を把握することを目的とした。

2. 調査対象と方法

(1) 調査対象

- ・年齢 25～49歳の女性
- ・学歴 短大・高専卒以上
- ・地域 東京、神奈川、埼玉、千葉

(2) 調査時期

2011年11月25日～27日

(3) 調査方法

株式会社マクロミル登録モニターへのインターネットを利用したアンケート調査

(4) 主な調査項目

現在までのライフプロセスの状況、就業継続理由、離職理由、職場選択の基準、就業意識と就業実態、学卒時と現在のライフデザイン、女性の就業に対する両親・配偶者パートナーの意識、転職・再就職意向、大学に期待する女性の再就職支援、将来への希望と不安など

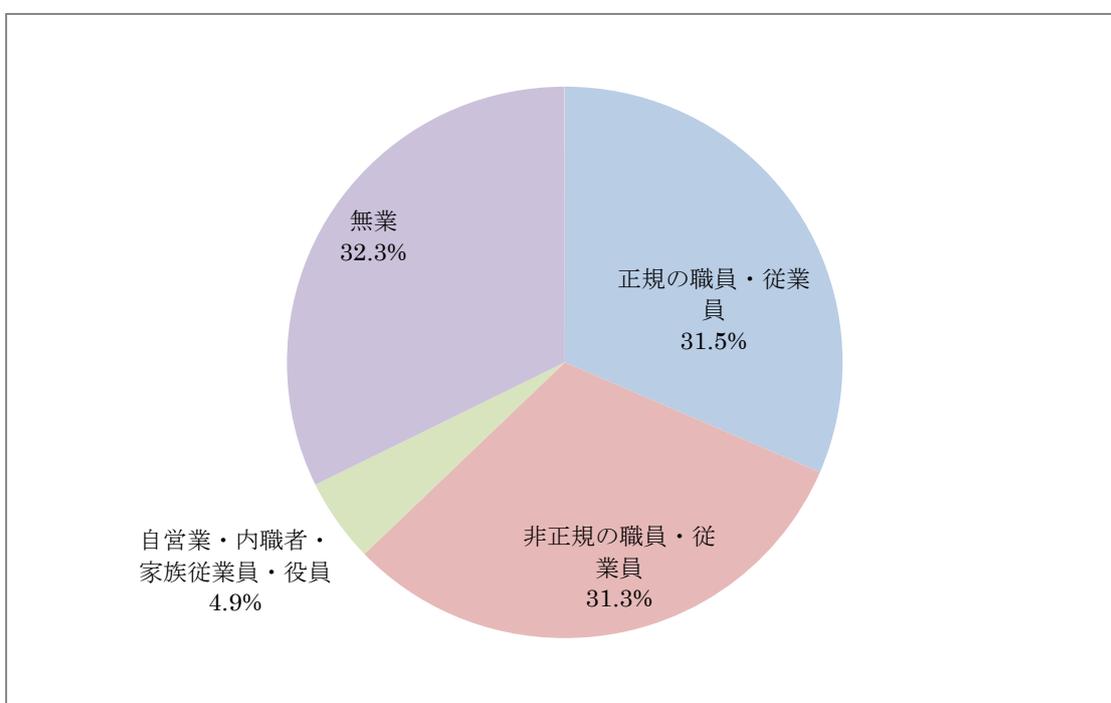
(5) 回答人数

5155 人

(6) 調査対象者の割付

本調査では、調査対象者の就業形態の偏りを避けるために、年齢を 25～29 歳、30～39 歳、40～49 歳の 3 つに分け、それぞれの年代に対して 2010 年「労働力調査」に基づいた就業形態の割付けをおこなった。その結果、全体として正規雇用、非正規雇用、無業それぞれが約 3 分の 1 を占めている。また、自営業・内職者・家族従業者・役員は約 5% であった。

調査対象者の就業形態



3. 報告書の構成

本報告書は、大きく第 1 部と第 2 部からなっている。

第 1 部では、調査目的や方法など本調査の概要、単純集計結果、調査対象者の 5 つのライフコース・パターン別による集計結果（クロス集計）を掲載する。

第 2 部では、第 1 部の結果をもとに個別の視点から考察する。

■ 報告論文での注意事項

・パーセンテージは、小数点第 2 位で四捨五入して、小数点第 1 位までを表示した。四捨五入をしたため、合計値が 100% を前後することがある。

日本女子大学 現代女性キャリア研究所

「女性とキャリアに関する調査」研究プロジェクト

プロジェクトメンバー

大沢真知子 (日本女子大学人間社会学部・研究代表)
高頭麻子 (日本女子大学文学部)
吉崎静夫 (日本女子大学人間社会学部)
坂田仰 (日本女子大学教職教育開発センター)
岩木秀夫 (日本女子大学人間社会学部)
永井暁子 (日本女子大学人間社会学部)
原ひろみ (日本女子大学家政学部)
鈴木陽子 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)
三具淳子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)
杉浦浩美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)

報告書執筆一覧

◎岩田正美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・所長)
三具淳子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
杉浦浩美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
仲田周子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
斎藤真由子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
盧回男 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・RA 研究員)
御手洗由佳 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・RA 研究員)

「女性とキャリアに関する調査」は、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」における「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」の第2テーマ「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」(研究代表者：大沢真知子)の一環として実施されたものである。

